



ヒイラギモクセイ [柵木犀]

常緑 / 中高木 / 木本植物 / 外来種



科名 モクセイ科 (APGⅢ)

特記 生長：普通、雄の樹のみ

芳香ある白い花をつけるが、ちらほら程度でキンモクセイほど多くは咲かない。ヒイラギとギンモクセイの種間雑種とされる。葉は肉厚で刺状の鋸歯をつける。モチノキ科のホーリーもよく似た葉をつけるが、モクセイ科は対生、モチノキ科は互生に葉をつける点で区別できる。



Memo

ヒイラギモクセイのように異なる種の雑種を「種間雑種」、異なる属であれば「属間雑種」という。

お手入れカレンダー	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
花	花期										■	■	■
果	果実	(結実しない)											
葉	黄葉												
肥	施肥	■											
剪	剪定	■						★★				■	

★：花芽分化の時期（分化後に剪定すると花付が少なくなる）

好みの環境			
日当たり	陽	○	○
土壌	乾	○	○
寒さ	強	○	○
暑さ	強	○	○
潮風	強	○	○

観賞ポイント	姿	花	葉	紅葉	黄葉	実	香
	○	○					

ポイント

雄株だけしかないため結実しない。生垣に使われることが多い。葉の縁に針状の鋸歯があり、進入禁止したい場所で実用的な利用ができる。「ヘリグロテントウノミハムシ」が発生したら早めに対処。

剪定

萌芽力があり強剪定に耐え葉が密生するので、生垣や刈り込みに利用できる。生垣は5月、7月、10月の年3回剪定すると維持しやすい。

病虫害

「ヘリグロテントウノミハムシ」が発生する。ヒイラギモクセイ、ネズミモチに被害が多く、葉が食害されると跡が茶色に変色し見苦しくなる。4月下旬から5月の幼虫発生初期に対処するとよい。